

アシスト

市川市サッカー協会第4種委員会 委員長 石原孝幸

委員長通信が滞ってしまい申し訳ありませんでした。先日「委員長通信、楽しみにしていますよ。」とお声掛け頂き、気持ちを新たにしたところです。今回の内容は8月末にお伝えする予定だった物ですが、8月末は心痛む事が多く、時機を逸してしまい、やや昔の話題になってしまいますがご容赦下さい。

— 市川FCは 20年間 ドイツ遠征を続けています —

今年も、8月4日（月）から8月14日（木）までの日程で、市川FC(市川トレセン)6年生のドイツ遠征を行いました。遠征先は市川市がパートナーシティとして友好を深めているバイエルン州ローゼンハイム市。選手10名と指導者4名で行って参りました。

子ども達は初日から、地元の地域クラブ「ヴェステルンドルフ」が主催するサマーキャンプに合流し、ドイツの子ども達と一緒にトレーニング開始。約1週間後のキャンプ最終日には近隣クラブも参加する大会にも出場しました。

今年参加した子ども達も

「言葉はわからなくてもサッカーをすれば直ぐ友達になれること」(サッカーは世界の合言葉)

「サッカーは芝生の上でやるものだという事」

を体感できたものと思います。

さて、このドイツ遠征も回を重ねて21回目。思い起こせば、記念すべき第1回目は、バイエルン州サッカー協会の総監督ラインハルト・クランテ氏のご尽力によるものでした。その後、10年ほどは、クランテ氏及びバイエルン州サッカー協会のお世話になり、市川市とバイエルン州ローゼンハイム市がパートナーシティとなってからは、ローゼンハイム市にお住まいのバイエルン州サッカー協会副会長のフォレスト・ヴィンクラー氏及びローゼンハイム市のお世話になっています。

今回思いがけず、20周年を記念して、バイエルン州サッカー協会から素敵なトロフィーを頂戴し、合わせて互いにボールにサインし合いましたので、皆様にもご披露いたします。

20年前、始めてドイツに行った時のことを思い出しますと、その数年前にドイツがワールドカップで3回目の優勝を遂げた時期でした。20年の年月を経て、ドイツは2014年、再びワールドカップで優勝しました。我が日本はというと、この20年間で、夢だったワールドカップ出場が目標となり、連続5回出場し、今では出場するのは当たり前となりました。

この20年間で日本サッカーは本当に大きく成長できたと思います。しかし、サッカー文化の成長としては、まだまだドイツには遠く及ばないというのも現状でしょう。私ども市川FC(市川トレセン)がドイツ遠征を始めたきっかけは、子どもの感受性の強いこの時期に、何とか本場の本物に触れさせたい、また私ども指導者は本場から何か学びとりたいという願いからでした。市川FC(市川トレセン)のこのような活動は、日本全体から見ると、小さな市の1チームの遠征に過ぎませんが、このようなチームが20年間、そして今後もドイツ遠征を継続していくことで、さらに私どものようなチームが今後どんどん増えていくことで、日本にサッカー文化が定着し、成熟していくものと自負しております。

今後も市川市サッカー協会第4種委員会として、市川FC(市川トレセン)のドイツ遠征を続けて参ります。ご協力のほど、お願いいたします。



※この場をお借りして、20年間変わらずドイツ遠征に関わり、ドイツ関係者と市川FCのパイプ役として、すべてをコーディネートして下さり、遠征にも同行していただいている 石井 学 氏並びに奥様の 石井 寿子 様に深く感謝申し上げます。



大崎

齋藤

石原

佐藤

右から
ローゼンハイム市副市長
バイエルン州サッカー協会総監督
バイエルン州サッカー協会副会長
アントン・ハインドル氏
ラインハルト・クランツ氏
フォルスト・ウインクラー氏